
それは突然に。

ふおすとん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それは突然に。

【Zマーク】

N4225D

【作者名】

ふおすとん

【あらすじ】

私がいなければ・・・あなたは死なずに済んだのに・・・。

急に、私の世界からあなたが消えた。

毎日、いるのが当たり前だったあなた。

おはよう、あこせつが当たり前だった日常。

それが、ある日急に終わってしまった。

もう、笑ってくれない。

話しかけてくれない。

「亮・・・」

「じつじて」なったのかわからない・・・。

なんで、あなたが死んだの？

本当は・・・

私が死ぬはずだったのに。

じつして

「じつじて・・・私を庇ったのよーーー。」

もう、もうじらない。

もひ、あえない。

寂しさよ、命の重さが私の心に重くのしかかった。

「ひひ・・・ひひく・・

誰もいないこの部屋で

私とあなたは最後の面会。

話しかけても何も返ってこない。

それは、当たり前だけれど。

とても辛かった。

あまりにも、早すぎる死。

それも、私がいなかつたらきっとまだ生きてた。

私が、あの日

死のうとしたから

それを庇つて

あなたは、逝つた。

私が殺したようなものだった。

なのに、

どうして

私はここにいるんだろう。

私が、本当は来ちゃいけないのに。

「ごめん、ごめん、ごめんね。

どんなに謝っても、この気持ちは届くのだろうかと思つた。

私は、部屋から逃げるように出て行き、その足で屋上まで走つた。

「亮・・・！」

青空に向かつて大きく叫んだ。

「亮にもうった命、大事にするーもう、死のうなんて思わないからー！」

一息つき、再び大きな声で叫ぶ。

「亮、愛してるー！」

(後書き)

えつと、111まで読んでいただきありがとうございました！
何か分からぬ点や、誤字、脱字などがあればこましだりどんごん言
つてください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4225d/>

それは突然に。

2010年10月17日08時11分発行